

公益財団法人JKA2025年度 地域ふれあい交流活動 補助事業 自己評価報告書

補助事業に係る自己評価を行いましたので、下記の通り報告します。

日時：2026年3月27日（火）

場所：書面開催

参加者：学校長 渡辺二三彦、地域協働コーディネーター 土田 哲也 氏、本校地域協働センター長 栗飯原 匡伸

事前計画の事業内容と達成目標を報告し、評価基準に基づいて採点を行う。（最高5点）

<p>(1) 受益者 (ニーズ)</p>	<p>天竜高等学校が拠点となり、地域住民と地域の小中高生が一体となって地域の魅力の掘り起こしを行い、地域の井戸端会議としての若者会議を開催し、その共有を行ったり、地域の食材を使った料理教室や商品開発を行ったりして、地域活性化に大きく貢献することができた。昨年度締結した浜松市との連携協定を軸に、市との連携事業を展開し、中山間地域の活性化を担うことができた。</p>	<p>採点 4</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>1. 中山間地域ブランディングのためのプロモーション動画、パンフレット、ポスターの作成と配布。 2. 「中高生未来サミット」を開催。 3. 郷土食や伝統文化の体験教室の開催 4. 中山間地域の未来を考える若者会議の開催。年に3回。地域住民と中高生の井戸端会議的な交流事業。</p>	<p>採点 4</p>
<p>事業の 新規性 または 継続の 必要性</p>	<p>地域の主要世代が高齢化している現状において、中高生目線による新しい価値での地域の特徴や課題を把握し、それに基づいた具体的なアイデアや取り組みを考え、地域住民や関係者と協力した既存の地域コミュニティの強化や同世代による新しいコミュニティの創出は新規性がきわめて高い。また、高校生世代が中心となって、政令市との連携事業を計画運営し、中高生にとって魅力的な地域資源の再発見を行ったことは、県内において先進的な取り組みであった。</p>	<p>採点 4</p>

	実施計画・体制	<p>実施にあたっては、本校の地域協働センター職員を中心に、本校教職員であった。また地域コーディネーターの土田 哲也氏に地域とのハブを依頼した。天竜区の未来を考える若者会議には、浜松市役所、天竜区役所、天竜商工会、静岡大学の職員が参加し、活動をサポートした。今年度は、浜松市との連携事業となった。</p>			採点 4
(3) 達成目標		[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	事業の実施結果	<p>事業内容の1~4の事業やイベントの開催がそれぞれできたかどうか</p>	<p>事業内容の1~4の事業やイベントの開催がすべてできたかどうか</p>	<p>1. 中山間地域ブランディングのためのプロモーション動画を1本、パンフレット『HELLO 天竜』、『HELLO 天龍村』を発行、シンポジウム発表用ポスターの作成がすべてできた。 2. 「中山間地域未来コンソーシアム」を開設し、年に1回会議を開催した。中学生、大学生が運営にあたった。今年度は、中学校への出前授業として、代替した。 3. 郷土食や伝統文化の体験教室を2回開催できた。 4. 中山間地域の未来を考える若者会議の開催が年に予定通り、7月12月3月に計3回できた。</p>	4
		[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	事業の成果・波及	<p>参加者、かかわった地域住民へのアンケートまたは聞き取りによる事業についての満足度と、中高生の地域愛の調査。</p>	<p>地域への理解や地域愛が深まったとする割合80%以上。</p>	<p>各事業、参加者アンケートを実施。総数は多くないものの、満足度、地域理解、地域愛のポイントが高かった。また地域住民への聞き取りアンケートでは、高校生が活躍できる活動になっているかどうかについての項目については、期待値が高かった。また、これについては、JKAの本校紹介動画でも地域住民の本島氏が回答している。</p>	4

		[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
		(4) 情報発信	事業の実施結果	1. ポスターの作成と学校だよりなど 2. 学校 HP 掲載、SNS の活用、新聞掲載、パンフレットの作成・配布などによる情報発信	すべて達成できた
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
		1. ポスターの作成と学校だよりなど 2. 学校 HP 掲載、SNS の活用、新聞掲載、パンフレットの作成・配布などによる情報発信	すべて達成できた	1. 学校だよりなどで行った。 2. 学校 HP や本校の SNS での発信を行った。 3. 中日新聞、静岡新聞の取材を受けたが、補助事業であることは掲載されなかった。『HELLO 天竜』で情報発信を行った。	3
(5) 自己評価の体制		本校学校運営協議会にて活動を報告した。参加者アンケートを行った。事前に提出した事前計画では記載したが、十分に実施できなかった。			採点 2

--	--

(b) 総合評価

総合

4

評価点

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

<p>(1) 事前計画(2/5) 記載の「<u>補助事業</u> の直接的な目的」 を踏まえた、事業 全体についての 意見・所感</p>	<p>予定通り、動画を作成・公開し、パンフレット『HELLO 天竜』『HELLO 天龍村』を発行することができた。本補助事業では生徒、地域の方がのべ150人以上参加し、交流を行うことができた。井戸端会議的な場が失われ行く中で、本事業により地域内でのインナーブランディングが緩やかに行われることで「にぎやかな過疎」が創出され、外部に向けては関係人口の増加が期待できる。</p>
<p>(2) 優れている 点・課題、改善す べき点</p>	<p>高校が拠点になって、行政の事業を計画・運営し、地域活性を街づくりの観点で行ったことは先進的な取り組みであるといえる。 天竜区から浜松市の中山間地域全域に活動を広げたり、フィールドワーク先の天龍村の調査・研究が行えたことはよかった。予定した体験教室が1回行うことができなかった。また期待したコンソーシアムも十分に機能しなかった。</p>
<p>(3) その他、アピ ールしたい点、是 非知ってもらいた い点</p>	<p>本補助により従来の活動がさらに幅広く行うことができ、結果として、浜松市との連携事業を円滑に実施することができた。結果、浜松市や外部団体からの連携の問い合わせが増え、生徒の教育活動の場が広がった。第一回てんりゅう探究フェスタの開催、浜松市地方創生 SDGs 取組表彰優秀賞、浜松市 20 周年記念行事の共同開催、浜松市ミライカレッジ事業の運営などがあった。</p>